

シグマ研究委員会核データ専門部会グループリーダ会合議事録(案)

日時 昭和62年12月14日 13:30 ~17:30

場所 原研本部 第5会議室

出席者 神田(九大)、松延(住原)、中川、水本、中原(原研)、
飯島、村田(NAIG)

配布資料

- | | |
|------------------------------------|------------------------|
| (1) 原研核データセンター年次計画 | (2) 核データ専門部会名簿 |
| (3) JFNDL-3 核データ評価に関するアンケート集計(12名) | |
| (4) 中重核サブWG議事録(1, 2回) | (5) FP核データサブWG活動報告 |
| (6) 熱中性子散乱則サブWG議事録 | (7) 特殊目的核データWG S63年度計画 |

1. 報告事項

- (1) 核融合国際ファイルの準備打合せのため11月中旬に原研柴田氏が出張した結果につき中川氏が報告した。30核種程度を一般ファイル、放射化ファイル、荷電粒子ファイルとして、'88年末までに編集する予定。当面、評価済みファイルを比較検討するが、D, F, Mg, V, Mn, Cu, Mo は JENDL-3を採用することとなるか?。これらのファイルは1月中旬までにIAEAへ送る。C, Cr, Fe, Ni, Pb についても JENDL-3を提供してほしいとの話しもある。次回は7月にGausigで会合予定。
- (2) 資料(1)にしたがつて核データセンター長期計画を中川氏が説明。

2. 今後の会合予定

- 重核および中重核サブWG: いずれも委託費等により金をかけずに開催する。
FP核データサブWG: 今年度中に2回ほど会合を持ち、評価作業を行なう。
核融合核データWG: 国際ファイル対応で年度内に会合を持ちたい。
特殊目的核データWG: 来年度計画検討のため開催、旅費の大部分は委託費でまかなう。

3. 62年度報告と63年度計画

1) 核データ評価WG

(1) 中重核サブWG(水本氏、資料(4))

これまで2回会合を開き、ベンチマークテスト途中結果による評価値の改訂、TNGの改良検討、放射化断面積ファイルの検討、DDXの実験値と評価値の比較を行なった。63年度もコード改良(TNG, Coupled Channel, GNASH等)、放射化断面積評価作業等を行なう。

(2) 重核サブWG(中川氏)

これまで2回の会合とベンチマーク途中結果の検討会を行なった。サブWG会合ではJENDL-3Tの評価法の検討とプロット図に基づく評価結果のレビューを行ない、現在各担当者が問題点を訂正中。1月末に3回目の会合を開き63年度計画等を検討する。

(3) FPサブWG(川合氏欠席、資料(5) 村田代読)

JENDL-2のFP 100核種に72核種を追加して評価作業を進めている。スムーズパートはほぼ完成、しきい反応も追加、共鳴パラメータは新データにより見直し中、積分テストのシステム化も実施。63年度はJENDL-3 FPファイル完成(8月末予定)、積分テストを行なう予定。

(4) 熱中性子散乱則サブWG (中原氏、資料(6))

評価計算は61年度でほぼ終了(軽水、重水、Be, BeO, Graphite, Polyethylene, ZrHx, UO₂, UC, Benzene)、62年度はその結果の検討、修正を行なった。63年度は問題あれば対応したい。

2) 核融合核データWG (神田氏)

これまでWG全体会合1回、N-14, 0-16 評価サブWG会合2回を行なった。全体会合では国際ファイル対応を中心に討議し、WGとしては協力する方向で進めたいとの結論を得たが不明点が多く、IAEAの第1回会合で情報を得て、検討したい。サブWGでは0-16のJENDL-PR1の改訂、N-14の評価を行なった。63年度は国際ファイル対応の作業が中心となろうが、ユーザもこのWGに参加しているので、情報交換の場としても機能したい。個人的な感想であるが、今回の国際ファイル対応などを見ると日本は情報の取り方がまずいのではないか。対応が遅れがちである。

3) 特殊目的核データWG (飯島氏、資料(7))

これまで3回の会合を開き、 (α, n) , DPA/KERMA, Photo-reaction の勉強を行なった。63年度は、この3つのサブWGに分けて活動したい。全体会合も年2回程度予定したい。63年度計画の詳細は近々会合を開いて討議したい。なお、その他の特殊目的核データについては、アクチニド、ガス生成、スタンダードは核データセンター、崩壊データは核構造・崩壊専門部会、ドシメトリーは炉定数専門部会、放射化断面積は中重核サブWGにお願いしている。

4. 核データ専門部会の組織等についての討議

現状組織の存続: 資料(1)によると、63年度もベンチマークテストが継続される予定であるが、実質的にも、ある程度の評価値の改訂作業が残ろう。また、評価報告書の作成も現WGで実施することが妥当であろう。従って、核データ評価WGは存続させるべきであろう。核融合核データWGは国際ファイル対応作業もあり存続させる必要がある。特殊目的核データWGは62年度発足し、63年度は実質的な活動を進める予定である。以上のように63年度には組織の大枠を変更することは出来ない。

タスクフォースの設立: 一方、資料(3)のアンケート結果に見られるように、既存コードの改良や新規コードの開発、核理論の研究などが必要である。さらに高エネルギー領域核データ対応のファイル形式検討などの課題もある。これらを調査検討するためなんらかの組織を発足させる必要がある。ただし、いきなり新しいWGを発足させると参加人員も多くなり、有効な討議が出来にくい。従って、専門部会ないし核データ評価WGの下に少人数のタスクフォースを設け、これらの課題への取組みを1年程度調査検討し、将来に備える必要がある。運営委員会でも討議してもらう。

メンバー変更の要検討事項: (原研)大久保氏を(原研)杉本氏に変更するか、(MAPI)佐治氏をどうするか、(阪大)高橋氏、(日立)小林氏に参加してもらうか

以上